



Weekly News

龍ヶ崎中央ロータリークラブ

2012.12.07 No.00729

R I District 2820 CLUB 50504

会 長：長友芳郎 幹 事：川上 勉 連絡先：TEL 029-863-5326 FAX 029-863-5327 <http://rcrc.web5.jp>
事務所：〒305-0021 茨城県つくば市古来 1451 例会場：〒301-0857 茨城県龍ヶ崎市泉町 1592-77 (ザ・ゴルフクラブ竜ヶ崎)



本日のプログラム

【通常例会 12.07】
総 会
本年次年度役員

次回のプログラム

【通常例会 12.14】
四つのテスト
会員卓話

12月の主な行事：家族月間

第728回例会報告

点 鐘：長友芳郎会長
ロータリーソング：奉仕の理想
ゲ ス ト：青木様、薄井様(龍ヶ崎社協)
ビ ジ タ ー：なし

会長報告：長友芳郎



■本日は社会福祉協議会より青木様、薄井様がお見えになっています。

5年ほど前、当クラブの創立10周年記念事業でグアムサンライズクラブと少年サッカーの国際交流

試合を行いました。当時の串田市長と共に青木様にも同行頂きまして、その折には大変お世話になりました。

あれから5年の月日が流れましたが、今年度がグアムサンライズクラブとの姉妹締結更新でありまして、先般、川上幹事と横澤会長エレクトとともにグアムに参りまして締結の更新をしてきたところです。

それから薄井様にはRylaに参加していただきました。今日はその報告をしていただくということでプログラムを組んでおりますので、後ほど宜しくお願いいたします。

幹事報告：川上 勉



■例会変更(牛久RC)
12/3 19:00 新会員歓迎会
12/16：家族忘年会 東豊
12/31：休会
01/07：新年会 金太郎鮎

■例会変更(藤代RC)

12/23：Xmas 例会 我那覇ガーデン 18:00～
12/31：休会 (定款第6条第1節)

■ロータリー情報館への投稿をお願いします。

■取手RCより週報が届きました。(Mailにて配信)

本日のプログラム

RYLA セミナーに参加して

龍ヶ崎市社会福祉協議会
主幹 薄井勇一郎様



■去る10月6・7日に五浦観光ホテル・大観荘(北茨城市)にて開催された第33回RYLA セミナーに参加させていただきました。

当日は、参加者が70名以上、ガバナーをはじめとした主催関係者の方が30名以上と、100名を超える方がおり、知り合いのいない私にとって少々心細かったが、開講式・オリエンテーションを経るうちに他の参加者とも話ができ、その後、私を含め9名のメンバーとともにグループに配属された。

私と一緒にしたメンバー(男性7名・女性2名)

- ・元高校教員(現高校テニス部のコーチ) 60代
- ・保険外交員 30代前半
- ・会社員(塗料関係) 2名とも20代後半(上司と部下)
- ・障がい児福祉従事者 20代前半
- ・女子大生 20代(インドネシア留学生)
- ・女子大生 10代
- ・男子高校1年生(フランス留学生)

当初からグループの雰囲気良く、他のグループより会話が多かったと感じた。

県立岡倉天心記念館の見学を経て、グループワークに取り組んだが、その主題は「東日本大震災からの復興・再生をどのようにするか」を討論し、グループごとに発表するものであった。

グループ内での討論について

① 震災時どのような状態であったかを各自報告。

茨城県は被災県でもあるので、皆(男子高校生は地震後に来日)詳細に語ってくれたが、より震源に近い県北

地域に在住している方の話を聞いた時、私は戦慄を覚えた。それは10mもの津波が押し寄せ、建物は壊滅的な被害を受けた上、ライフラインも麻痺したことで、親戚の安否確認は自転車で行ったなど、宮城県や福島県と同様な被害だったことだ。

私が住む龍ヶ崎市でも停電や断水の被害はあったものの、命に関わるものは私自身感じなかった（むしろ、その後に市と協働で運営した避難所の運営や支援業務が非常に大変だった）。しかし、東北地域は「命の危険がすぐ目の前にある」ことを切実に語ってくれ、テレビなどの情報よりもこのような話を聞いた方が、より地震の恐さを体感できた。

② 討論の議題とどのように融合させるか。

今回のグループワークの主題である「東日本大震災からの復興・再生をどのようにするか」の副題として、数点の議題の中から選択し討論することになっていたが、我がグループでは「更地の再生」を選択し討論した。

～「更地の再生」の背景～

都市の中心箇所が津波により壊滅し、その後は自治体による復興計画はあるが、遅々として進まない状況にあり、更地が放置されたままになっている。

～問題点～

- ・新たな住居を高所に建てる人が殺到し、高台の土地価格が急騰。
- ・津波対策がなされていない（或いは地区住民にその計画が浸透していない）。
- ・その為、都市部に在住する一部の住民が業を煮やし、その場所に住居を建てるが、ごく少数であり、点在するのみで必ずしも適切な都市計画になっていない。

～グループの意見～

被災された方の「思い」を聴く

- ・更地に住宅地や都市機能を高層化しても、今回の地震が大規模の為、建物への信頼が低下している（例えば免震化されていても、また崩れてしまうのでは？）
- ・その場に居住することに不安を抱いている。

自治体はもはや限界？

- ・震災後1年以上経過しても復興そのものが不十分。もはや計画があっても実行できないのではないか。

→全ての人が震災以前の生活に戻るのには困難ではないか…という意見や、人として生きる以上、希望を捨ててはいけないという意見もあり、とにかく前向きに意見を出していくことが大切という結論に至る。

③討論の結論（実現が困難かも知れないが前向きな再生計画として）

- ・高度が低い土地は居住区を作るのではなく、人々が自然に集まるような施設を作る。
(例) 複合施設 → 運動公園・メモリアルパーク・フリーマーケット
- ・津波に強い地域作り

(例) 海岸沿いにマングローブをみんなで植樹する（自然堤防）

・人々が必要とされる施設を船上に移転する。→津波に対応できる可能性

(例) 総合病院・市町村機能など
モデルケース



山下公園（神奈川県横浜市）+大きな船（タンカーや旅客船）に都市機能を移転させる。

感想

閉講式にガバナーや関係者の方々が「今回のセミナーで最も大切なことは仲間を作ること」と話されていた。

私のグループは年齢層が広く、外国の留学生もいた。彼らは日本語でのコミュニケーションは多少難しい部分はあったが、だからといって孤立せず、積極的に自分なりの方法で意見を伝えていた。また、他のメンバーも積極的に意見を求め、他の人と接点を作るなど、短い期間であったがグループ内は会話が溢れ（一番騒がしかったとも言えるが）、とても良い雰囲気であった。討論の内容については、あまりに壮大であり実現は困難と思われるが、皆がテーマと向き合い真剣に意見を出し合ったことは、とても良かったと思う。

私は、龍ヶ崎市社会福祉協議会に15年勤務し、職務の一つとして「市民がお互いに助け合い支えあうまちづくりの形成」を目指しているが、その根幹にあるものは、「人とのつながることの大切さ→仲間を作ること」をこれまで以上に理解することができた。

最後に、このような貴重な体験を提供して頂いた龍ヶ崎中央ロータリークラブの皆様には心より感謝を申し上げます。

■出席状況

会 員	16 名	出席率	75.00 %
出 席 者	9 名		
出席免除者	2 名	Make-up	3 名
定款第9条3節a	1 名	椎塚・大竹・米島会員	

■ニコニコボックス（目標額 600,000 円）

本日 6 件 11,000 円（本年度累計 218,000 円）

荒木会員：皆さんお元気ですか。またまた久しぶりの出席になってしまいました。すみません。

海老原会員：ライラ参加おつかれさまでした。

長友会員：社協の青木さんようこそ。薄井さんライラ報告よろしくお願ひ致します。

川上会員：社協の皆様いらっしやいませ。

山口会員：社協の皆さん、よくいらっしやいました。

横山会員：薄井様 RYLA 参加お疲れ様でした。

例会の欠席は、水曜日 AM:10:00 までに 城出 SAA
TEL 0297-66-3258 に連絡して下さい。